

狂犬病・デング熱・ マラリア・コクシジオイデス症 海外で罹る危険性のある感染症

2006年11月に2例の狂犬病が相次いで報告されました。いずれもフィリピンにおいて犬に咬まれたことが原因であり、咬傷後、適切なワクチンの接種を受けていれば、発症を防げたと推測されました。

この例のように現在日本には存在せず、予防法や危険因子に曝露後の対応方法が一般市民に限らず保健衛生の専門家にも知られていない感染症が、世界には数多く存在しています。今回の患者発生があるまで、狂犬病が世界の数多くの国、地域で感染の危険性があることは知られていなかったと思われ、また米国の一部の地域がペストの常在流行地であるといったことも知られていないと思われ。さらに国内では感染の危険がないマラリアやデング熱、コクシジオイデス症の国内での患者発生が、感染症発生動向調査で報告されています。

そこで今回、わが国の市民が海外で感染し、帰国後発病している感染症を主として取り上げ、感染の可能性のある地域、危険性の大きさ、初発症状や主要な症状、治療法、予後、避けるべき行動などの予防法等について紹介することを目的に、特集を企画しました。

対象とした感染症についての解説は国立感染症研究所のHPで解説されている他、専門書籍にも詳述されていますが、本特集では、感染症の専門家以外の保健師をはじめとする保健衛生従事者にもわかりやすく解説していただくことを企図しました。

